

育學を教える先生がいないのであります。大學でありますから相當の人でなければ、大學教授のメンバーとなるのに工合が悪い、そんな人を保育學界から出すという事が大切であります。時間がありませんでこの位にして、大體、私の個人的考えをのべました。

司會者——つゞきまして、厚生省の吉見さんにお願ひしましょう。

○兒童福祉の立場から

厚生省兒童局 吉見 靜江

吉見氏——私は今日の問題の觀點がはつきりせず、見當の違ふ事を考えて参りました。今の御話で、幼兒の教育はいつから始まるのかという組織を問題にされてゐる事がわかりました。子供の仕合せの立場からみれば、今も三木先生の御言葉にもあつたように、生れた時から始まるというのには、皆様も御賛成と思ひます。生れたその日から習慣が反復されてその人の成長、生き方がきまつて來ると考えます。それが適當に、普通に行われれば何も考えないでよいのですが、何か缺陷があると、それが大ごとになるのです。日常の生活に於ても、つまらぬ物でも事缺かぬ時には何とも思ひませんが、その物がなくなつた時、その大切さがわかるようなものです。その意味で子供の仕合せの立場からいうと、生活の環境の整理が何より大切です。それには兒童福祉法にもあります

ように、健康に育つ爲に、健康に生れなければなりません。それは母胎から始まると思ひます。母胎が勿論健康で、しかも母の生活そのものが、體のみならず家庭の精神生活も健全なものでなければなりません。精神的に不安消瘳してゐては生れた子が不健康になります。それから考えると、幼兒の教育は母親の體と家庭の生活から始まるのだと考へたいのです。こんな例もあります。あやされもせず育つた子は生後五六ヶ月でありながら、まるで何の表情もなく、體はなみよりは大きかつたのですが無反應な子供となつていました。それを普通の扱いにする事によつて普通の子に段々ともどつていきました。もつともこの頃には年令的にも反應の出て來る時代になつていたからではありましたが。そのように生れた時からの環境というものは本當に必要であります。もう一つ、環境が悪かつた爲缺陷がある發達をした例として、この間土佐の國の出來事ですが、啞の人に子が生れました。そこは山の中であり、その子には父がなく、近所もかなり離れていたので人に接する機會も少なかつたのでしよう。近所の人々は啞の子は啞であると大して氣にもとめなかつたのです。その子は四歳まで言葉のない成長をしました。その頃になつてようやく氣づかれ、人々も啞の子は啞であるといつた漠然とした考をすて、普通の言葉を興える事により、やつと普通の言葉の話せる子供になりました。これと同じような例が他にもあります。おじいさんが驚でした。その子には父はなく、お母さんが働きに出かけるとおじいさんと孫文で遊ん

でいました。五歳の時には子供はおじいさんと同じに手まねで發表するようになっていました。従つて他の子供と遊ぶ事もありませんでしたが、この子も普通の指導によつて言葉で覺え話せるようになって來ました。このように環境そのものに缺けていると非常に困るようになるものです。子供の生れた時から普通に生長出来るよう、環境を作つてやる事は大切な事です。さて、團體施設や幼稚園、保育所へ入れて育てるということ、これには何歳からがよいと一定標準がありましようが、幼い時には成長發達がそれと違ひますから、個人差を認めて個別的に扱つた方がよいでしょう。殊に兒童福祉法にありますように、家庭の環境に缺ける時保育所へあずけて、年令を何歳ということなく、入れて扱うことにしてあります。これは個人差がはつきりとしていますので、それを認めて個別的に扱うということです。子供はよく觀察しないと、その時によつて言つた事の意味が違つています。これは私の孫ですが、例えば小さい子が童謡の繪本をみて喜んでいました。そこにたま〜「お手々つないで」という言葉がありました。子供は手をつなぎたくなつて「手をつなぎましよう」と申しました。しかしこれは相手を認めて手をつなぎたいのではなく、自分の立場から相手がほしいのであつて、グループ的感情が發達してきたという意味ではありません。一年八、九ヶ月位では本當のグループ的指導のなしうる年令になつていゝといへません。同じように子供がまゝを投げる時、相手が必要でまゝをなげているという事がわか

ります。この時はグループ的に扱ひうるのです。同じ發達にしてもこのように違ひます。個人差を認めて、それに應じた扱ひをするのは幼稚園でも保育所でも同じですが、組織的に施設に入れて扱わねばならぬという時は個別的に扱つてほしいのです。

司會者——シンポジウムという物はいろ／＼の御意見がぶつかり合つて火花を散らす所が面白いのですが、文部省視學官さんと厚生省保育課長さんのお話は、大きな立場からみていらつしやるので、私共の考ふる仕方とは違ひ、少しも小さいぶつかり合ひがありません。(笑聲)次に心理學的醫學的敎育學的方面から、學問的に十分言ひ争つていたゞけたら面白い、面白いなんて失禮ですが、興味が湧くと思ひます。山下さんにお願ひしまししよう。

○心理學的立場から

愛育研究所 山下俊郎

山下氏——うまくぶつかり合えますかどうかわかりませんが、心理學をやつてゐる立場からいつて今までの心理學的な研究をもとにして、幼兒の教育上の年令、區切りの素材を提供したいと思ひます。その意味では吉見さんとぶつかると思ひます。(笑聲)醫學的には後に齋藤先生が話されますが精神的にも身體的にも一つの基準をおいて考ふる必要があると思ひます。